２．血圧高値とがん死亡との関連：
一般成人を対象とした 29 年追跡研究（NIPPON DATA80）

研究協力者　久松　隆史（岡山大学学術研究院医歯薬学域公衆衛生学分野　准教授）
研究分担者　門田　文　（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター　准教授）
研究分担者　早川　岳人（立命館大学地域健康社会学研究センター　教授）
研究分担者　喜多　義邦（敦賀市立看護大学看護学部　教授）
研究協力者　原田亜希子（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター　准教授）
研究協力者　岡見　雪子（群馬大学食健康科学教育研究センター　講師）
研究協力者　近藤　慶子（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター　講師（学内））
研究分担者　岡村　智教（慶応義塾大学衛生学公衆衛生学　教授）
研究分担者　岡山　明　（生活習慣病予防研究センター　代表）
顧　問　　上島　弘嗣（滋賀医科大学 NCD 疫学研究センター　特任教授）
研究代表者　三浦　克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　教授）

【背景】Onco-Hypertension が近年注目されている。血圧高値とがん発症・死亡との関連はこれまで数多く検討されてきたが、因果の逆転や降圧薬使用等の交絡を考慮した研究は乏しい。

【目的】降圧薬非服用者において、追跡開始後 5 年間の死亡を除外して、血圧高値と 29 年間のがん死亡との関連を検討すること。

【方法】NIPPON DATA80 は 1980 年循環器疾患基礎調査参加者の前向きコホート研究である。全国 300 地区の参加者から、循環器病の既往がなく降圧剤を内服していない、更に追跡開始後 5 年以内の死亡者を除いた 30 歳以上の一般成人 8088 人（平均年齢 48 歳、女性 56%）を対象とした。血圧は 5 分以上の安静後、水銀血圧計を用いて座位で測定した。がん以外（循環器病等）の死亡を競合リスクとみなした Fine- Gray の競合リスク回帰モデルを用いて、年齢、性別、喫煙（禁煙・現在喫煙 20 本/日未満・以上）、飲酒（禁酒・現在飲酒）、BMI、血清総コレステロール、血清アルブミン、糖尿病を調整し、収縮期血圧値（SBP）、拡張期血圧値（DBP）と各がん死亡との関連を検討した。

【結果】29 年の追跡期間中、胃がん、肺がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんにより、それぞれ 159 人（2.0%）、159 人（2.0%）、89 人（1.1%）、86 人（1.1%）、68 人（0.8%）が死亡した。血圧高値は、大腸がん死亡とのみ正の関連を認め、それ以外のがん死亡とは関連がなかった。血圧高値と大腸がん死亡との関連には年齢による異質性が存在し、30-40 歳代で正の関連を認めたが（10mmHg 高値あたりのハザード比 [95%信頼区間], SBP 1.43 [1.22-1.67] ; DBP 1.86 [1.32-2.62]）、50 歳代、60 歳以上では関連がなかった（異質性 P 値は SBP･DBP いずれも<0.01）。30-40 歳代の

対象者における喫煙、飲酒、肥満、糖尿病の有無別の層別解析でも同様の結果を認めた（全異質性 P 値>0.1）。

【結語】30-40 歳代の一般成人において、血圧高値は大腸がん死亡のリスク増加と関連した。

Hypertens Res. **2024 Jan;47(1):206-214. doi: 10.1038/s41440-023-01497-3.**